

FROM EDITORS

編集から



私は天覧山から神久山、多峯主山に至る自然を開発から守る為に、この運動に参加しています。

飯能の魅力は、誰もが登れて楽しめる心を浄化してくれる豊かな自然がすぐそこにあることです。飯能にとってもそこに住む人間にとっても、なくてはならない環境を残していかなければなりません。二十年前、この開発計画が西武から出され、その運動の中心にあった青年会議所の人達と、多くの市民の働きによって山は残されたのです。今また同じ開発計画が、飯能の多くの人達の心を踏みにじって出されました。飯能の里山が無くなるうとして数年がたちます。この自然を守る運動に青年会議所の人達が参加されていないのが不思議です。道一本造っても水源は断たれ、多くの動物・植物がいなくなる森に、オオタカは棲んでくれるでしょうか？



日曜日
ふるさと散歩

開発は、企業と一部の人の利益にはなっても、飯能のため、市民のためになるでしょうか？ 失う物の方がはるかに多いに違いありません。自然が、豊かな感性を持った人間を育て、創造性のある人間を育てるのだと、多くの人が言っています。子ども達のためにも、動物・植物・昆虫などと身近に接し、観察していける環境を残していきたいと思います。会報「やませみ」をあなたの友達に配り、この運動を広げて下さい。何部でもお送りします。これを読んだあなたに会えますように。私たちにエネルギーを下さい。 K・Y

◎ほーほーはーたる来いの巻
日時 六月二六日(土)二七日(日)
七月三日(土)四日(日)

◆服装 長袖長ズボン・できれば長靴
共に午後六時半

◎八月・早起き・山歩き巻

日時 八月八日(日)午前六時半

◆集合は各回共に能仁寺山門前
◆参加費 保険料(任意) 百円

やませみ・21

- 発行/1999年6月20日
- 編集・発行/
天覧山・多峯主山の自然を守る会
- 事務局/
浅野正敏 埼玉県飯能市柳町 18-17 ☎ 0429-74-1691
小船晶子 ☎ 0429-72-4602
- 編集局/鈴木弘子 ☎ 0429-77-0141
- イラスト・レイアウト/石岡 真由海
- 郵便振込口座/
天覧山・多峯主山の自然を守る会
00580-9-16342
- ホームページアドレス/
<http://www03.u-page.so-net.ne.jp/yc4/akisato/index.html>

現在、天覧山・多峯主山の北東地域には、西武鉄道による巨大団地計画があります。「天覧山・多峯主山の自然を守る会」は計画の発表以後、署名運動や、県や市に対する働きかけ、自然観察会、会報「やませみ」の発行などを通してこの地域の自然を残すことを訴えてきました。この団地計画に対する県の許可は、まだ下りていません。緑豊かなふるさとを守るのは、私たちひとりひとりの市民です。まだ間に合います。どうぞあなたも参加して下さい。会費や手続きなど詳しいことは事務局までお問い合わせ下さい。また「やませみ」やお知らせ等は谷口眼科・銀河堂・Café裏にも置いてあります。

会費募集集中!

No.21
1999年6月20日



天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

やませみ

絶え間ない車の流れの

ほんの一部のものの切れ目

飛び渡る影二つ、キジのつがい

川岸から側道の藪へ。どうぞ気をつけて。

ひとつひとつ見えてゆく

鳥の戸花の色 虫の羽数

苔木のかたち わたしのまわりの

生きるものと消えてしまったものたちの

縁なす葉が空へと昇る盛夏へ。



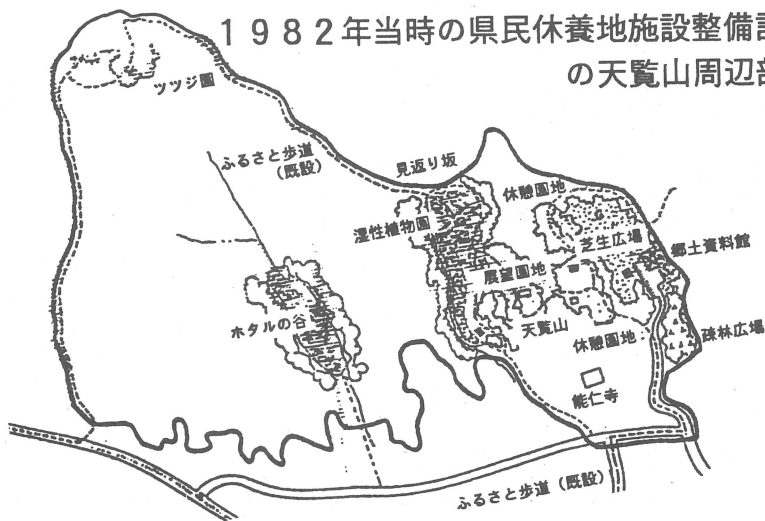
飯能市民 休養地の現在



埼玉県自然保護課は、平成9年度に天覧山・多峯主山一体を調査し、「飯能県民休養地自然環境調査報告書」をまとめた。昨年度（平成10年度）においては、この調査報告書を基にした「飯能県民休養地基本構想報告書」の作成が行われました。これに基づいて「同基本計画」が進められてゆくこととなります。県としては、県民に対して積極的にお知らせするものではないとして、その内容についての公表を、現時点においてはしていません。

昨年来守る会は、県自然保護課との懇談の中で、こうした計画を進めてゆく上で県民（市民）参加が重要であると訴え、公表するよう要望しています。また、飯能市の担当課（商工観光課）に対しても、協議会設置の推進並びに市民参加を要望していますが、今のところ一步も前に進んでいない様子です。真に市民が望む県民休養地計画となるには、その合意形成に手間と時間がかかるのを覚悟しなければなりません。さらに、計画が実施され、施設として

1982年当時の県民休養地施設整備計画
の天覧山周辺部分



運営された場合の維持・管理をも念頭にに入れておかねばなりません。飯能県民休養地内の自然環境を維持・管理してゆくためには、市民の積極的な関わりが必要になることは明らかであり、計画段階での市民参加が欠かせないものとなるはずですが、

今年3月の県議会選挙に先だって、守る会が行った公開質問状の中で、現県議会議員の沢辺藩吉氏は、「飯能県民休養地構想のスタートは市民と行政の合意づくりの良い機会、真剣な議論の積み重ねは市民意識の高揚につながり、まちづくりに必要なノウハウの蓄積になる」と回答しています。市民にとっては、市民参加という本来の意味を学習する場であり、行政にとっては、市民とのパートナーシップの学習の場となりうるものであると考えられることから、飯能県民休養地構想に対する市民と行政の前向きな行動を期待せずにはいられません。

「天覧山・多峯主山の自然を守る会」
代表・浅野正敏



里山の風物詩 「ほたる」の巻



夕闇の谷津田に軌跡を残しながら舞う、幻想的なホタルの世界。ホタルと言えばゲンジボタルとヘイケボタルが一般的ですが、ホタルの仲間には世界に約二千種類が存在すると言われています。国内ではこれまでに3亜種を含む45種の生息が確認されてきました。このうち、多峯主山周辺でみられるのはヒメボタルなど7種類です。

ホタルの仲間を大別すると、水生と陸生に分けることができ、私たちが普通「ホタル」と呼んでいるのはゲンジとヘイケの2種類で、幼虫の時代を水中で過ごす「水生」のホタルです。

「水生」ホタルの幼虫は、カワニナやヒメタニシなど水中の巻き貝を捕食して生活しています。成虫になると植物の葉についた露を吸いながら、約2週間を生き延びます。ゲンジやヘイ

ケは卵のときから発光し、当然ながら成虫も発光を続けます。世界的に見ても「水生」のホタルは数える程しか存在せず、ゲンジとヘイケは特異な存在といえるでしょう。

これとは逆に、ホタルの世界ではごく普通の「陸生」ホタルは、私たちに馴染みの薄いヒメボタルやクロマドボタルなど多くの種類があります。幼虫は主に森林や草原の下草の中に潜んで、キセルガイやカタツムリなどを捕食しています。多くは幼虫の時代に光り、成虫になると発光しなくなる種もいます。

さて、ホタル界では異色を誇るゲンジとヘイケですが、私たちにとっては身近な存在で、夏の風物詩として昔から親しまれてきました。しかしながら、両者の生息する自然環境は年々悪化す

る傾向にあります。特に、環境の変化に敏感なゲンジボタルでは、家庭雑排水の流入による河川の水質悪化や水温の上昇、大規模開発による直接的な水源の破壊、宅地化による光害、コンクリート護岸による蛹化場所の喪失などが、減少の一因と考えられます。その他にもホタルの幼虫を人為的に放流するといった事が原因の場合もあります。これら放虫の多くは、地域外から捕獲した幼虫や卵の場合がほとんどで、もともと生息していた在来種のホタルや、周囲の生態系に影響を与える恐れもあり、問題があるといえます。

ホタルを守り育てるためには、ホタルだけに着目せず、生態系全体としての視点から自然環境を考えることが大切なのです。

日本生態系協会研究員 市川和男

風と緑と鳥と人 ま郷音き合ふ まつりでした。

第2回里山まつり

五月九日に行われた「第二回・里山まつり」のメイン・テーマは「自然との共生」。

午前中に行われた第一部では、各種ワークショプが開かれ「気功」では青空のもと、ゆっくりと体を動かしリラックス。「野草を食べる」では、天覧入りを散策して取れた野草を摘んで天覧に。ギターとアコーディオンをバックに山の空気を思いきり吸って歌う「野原で歌おう」のコーナーもありました。また、昨年同様「Tシャツアート」では大人も子どもも、ここでは芸術家。オリジナルTシャツに富んだTシャツが次々できあがり、さっそく竹竿にロープで飾られ、風にはためき、とてもきれいな来年はどんなワークショプがあるのか、今から楽しみです。第二部のネイチャーコンサートは、自然の動植物の環境に配慮すること、電気に依存する生活を見直してみたいという側面からも、マイクなどを使わずノン・エレクトリック。出演者も「里山まつり」のイメージにぴったりの方々が集まり、吹く風、葉擦れの音、鳥のさえずりと共演で、心地よいひとときを過ごすことができました。



♪ジャンベ（アフリカドラム）の弾き語り（叩き語り？）で、アフリカの大地と風を送り込んでくれたヤマザキヤマトくん。

「六歳のときから約十年飯能に住み、天覧山ではよく遊んだつもりだったが、『天覧入り』から山中に入るのは初めて。ここは僕にとって新しい天覧山だった。多くの人がこの土地の存在と現状を知らず、この美しい土地を守りたいという人が増えるかもしれない。もし僕がもっとたくさんの人を集められるようなミュージシャンであつたら、祭りの効果をもっと上げられたかもしれない。しかし、里山まつりはとても環境に優しいかたちで行われていた。規模も大きすぎず、マイクなどもなく騒音にもならない。こんなお祭りなら春・夏・秋と年に三回ぐらいやってほしいと思う。僕にとっては、子どもの頃よく遊んだ山や自然のために歌い演奏でき、とっても幸せな一日でした」



◆自由の森学園の生徒さんたちによる東北の郷土芸能舞「御神楽・みかぐら」は、自然の中で五穀豊饒を願い踊ることによって、郷土芸能の原点を見ることができました。まつりのあとの片付けまで手伝ってくれた生徒さんの一人、あやこさんは、

「チラシではいまいまだという主旨のまつりか分からないかったのですが、ここに来てこんなすてきな場所があったことも驚きだし、ここを開発しちゃうんですか？やめてほしいなああと心底思いました。というも実は、まつりには踊りに来ただけだったんだけれど、参加してみたら自分と通ずるというか、共感できる部分がたくさんあって、それで単なる出演者という立場だけでなく『参加したい！』と思ったから、最後の片付けまでしました。まつりを作った人たちと一緒に同じまつりをできたという感じがうれしかった。来年はもう卒業してしまひ、自由の森の生徒としては出演できないけれど、個人的に里山まつりのお知らせがほしいです。ぜひまた参加したいおまつりですから」



鳥のさえずりと吹き渡る風の中、宮澤賢治『よだかの星』を幻想的に表現してくれた〈劇団きまぐれ座〉のさわたりひろさんは、

「もう十年ほど昔のことになりますが、気まぐれ座が出前二人芝居『宮澤賢治童話集』を始めたとき、とにかくどんな場所でもやれるものにならなかつたというのがかなり本当の理由としてありました。で、電気もなんの設備もない屋間のつばらでできる芝居を目指したのですが、始めてみると『何もないのつばら』なんてものはどこにもないということがよくわかりました。そこには必ずかけがえのないものがあり、素敵な人々との出会いがありました。今回の里山まつりでも、大地から空からたくさんのエネルギーをもらうことができました。何もない豊かさを、ぜひたくを、久々に楽しめた一日でした。ありがとう」

◆当日、着ぐるみ（ジーツを縫って動物の絵を描き、すっぽりかぶるというもの）を着て踊ってくれた小学三年生の三上温湯ちゃん、

「里山まつりに行ったら、ともだちもきていました。さいしょは川であそびました。まだしっぽがはえていないカエルもいました。ギターやアコーディオンのえんそうで『たんぽぽ』や『花』『天覧山・多摩山主山のテーマ』をうたいました。Tシャツも一まいりかきました。みんなで山の上のほうに行つてあそびました。それから、じぶんたちで作ったきぐるみをきてあそびました。わたしはカエル、ミキちゃんはネコにへんしんして、うたっているところにとびだしておどりました。『よだかの星』もたのしかったです。犬のぐりちゃんたちともあそんで、たのしい一日でした」

◆そのほかにも参加者の女性から一言「テキ屋さん（プロの出店）が一軒も出ていないどころか、お店がない！町へ出るとすべてがカネカネカネなのにお金を一切使わずに質の高い音楽が、厚生省はこれらの危険性について否定的です。」

中川農水大臣のホウレン草試食や、土屋埼玉県知事による狭山茶の安全宣言など、行政のパフォーマンスは一時凌ぎに過ぎません。四塩化ダイオキシンの許容基準値について、日本では欧米と比べて桁違いに甘い値を採用しています。

では、今後どうすればよいのでしょうか。例えば、「可燃物」というのが、燃やしてよいものの明確な区分が必要で、分別収集の徹底を計り、ドイツのように子供へのインプリントが何よりの環境教育となります。メーカーや技術者、行政、マスメディアに、それぞれ、使命と役割があります。私たち消費者の心得としては、モノの使い方、捨て方を再考し、耐久品を選ぶ、今ある物を修理して使う、リサイクル、ゴミ減量、省エネルギーなど、安易にモノを廃棄しない視点が大事なことを再認識しましょう。

環境破壊というモンスターに怯えてふためいても手遅れです。日常の細やかな気配りで、豊かな暮らしと自然環境を維持していきたいものです。奥むさし環境講座ではこんなことを学ぶことができました。

H・K

地球上のすべての生物は、プラスイオンとマイナスイオンのバランスがとれて、中和状態にあってこそ健康であるという。体の中にプラスイオンが多くなると神経痛、喘息、脳卒中などの発生が高まり、人体に悪影響を及ぼす。私達が健康を維持するためには、マイナスイオンを補給することが大切で、都内より山間地、オフィスより郊外の方がマイナスイオンが多い。植物の沢山ある所には、マイナスイオンが多いということだ。

森の清浄な空気の中で運動をすると、室内で同じ運動をしたときより指先の血液量が約四倍も増加し、リラクゼーションした状態になったという実験結果もある。樹木の精油成分がアルファ波を大幅に増加させてくれることも分り、ストレスによって起こる心身症の治療に効果があるとも言われている。アルファ波はヨガの行者や氣功師が瞑想状態にあるときに多く現れる。ヨガや氣功に興味のある私にとって、森はほんとうに魅力的な場所です。



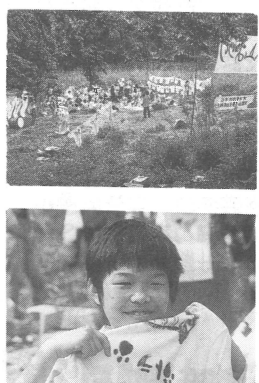
「体調が悪いかな」と思った時森に入り、小鳥の声を聞きながら草花と語り合い、新鮮な空気を体いっぱい詰め込んで楽しい時間を過ごして山を下りてくると、すっかり元気になった。人の本来持っている自然治癒力を最大限に引き出してくれることができる森、薬や手術なしで人を癒してくれることができる森、そこは四季を通じて全ての人々を平等に、心暖かく迎え入れてくれる。私達にとってなくてはならない大切な癒しの場なのです。その身近にある癒しの場がどんどん少なくなり、消えていこうとしている今、私達にできることはいったい何なのだろうか……

自然と共に生きる 癒しの森

山梨京子

以上一部&二部とも多彩なジャンルで行われた里山まつり。行政主体の組織だった祭りとは違い、手作りの素朴なお祭りですが、昔はきつこうやって地域の人々が自然に対し感謝を捧げ一日を楽しむ過ごし、お互いのきずなを深めるというような事があつたのかもしれない。お金をかけて大勢の見物人を集める祭りではなく、少人数でも自然を心から味わい、自然を大切にしたい気持ちをみんな分かち合う。こんな祭りをこれからも続け、天覧山の素晴らしさを一人でも多くの人に知っていただき、開発よりも大切なものがあるという心を私たちの心に刻んでいきたい。企業や行政にも勇気を持って価値観を変えてほしいと願わずにいられます。来年もまた、天覧入りで会いましょう。

◎曳地トシ&ハル



さる四月二十五日、前回一月十五日に引続いて第二回目の奥むさし環境講座が美杉台公民館でおこなわれ、駿河台大学教授内田康夫先生の講演を拝聴しました。当日の演題は「正しく知ろう！環境ホルモン」ということで、ダイオキシンの仕組みと消費者の心得をわかりやすく習得できた気がしました。今や、日本では足尾銅毒や水俣病、イタイイタイ病、カネミ油症など、公害の歴史は忘れ去られようとしていますが、所沢三富新田周辺のダイオキシン発生は飯能市民として他人事では済まなくなりました。

そもそも、環境ホルモン発表は一九九六年コロン著『奪われし未来』に始まるのですが、第二の『沈黙の春』（一九六二年カーソン著。薬過発表の古典として名高い）とも言われています。著書では数々の異常事例が報告されています。ハクトウワシの異常行動やカワウソの消滅、セグロカモメの奇形などは、一九五〇年代から観察されている現象だそうです。しかも、異変は地球規模で発生し、原因物質の化学的共通性が見いだせないという、難解な事態に遭遇しています。

本来、ホルモンとは、神経系や内分泌系のメッセンジャーとして器官細胞に働いて所定の生理作用を現わしたり調整をおこなうものです。ホルモン作用欠失の例として、性同一性障害の説明がありました。埼玉医大での性転換手術報道を思い出しました。